

テーマは「希望」 第13回狭山市民芸術祭 開催される

期間中の来場者数は延べ4000人を超え 成功裡に終了

13回目を迎えた文団連主催・市民会館共催の狭山市民芸術祭が、本年は2月19日から24日まで狭山市民会館全館を用いて開催された。この芸術祭は、文団連が総力を挙げて取り組んでいるイベントで、加盟団体による毎年趣向を凝らした展示や舞台、茶席等でお客様に楽しんで戴いている。

今回は子どもたちにも本格的な舞台を味わってもらえるように、中ホール特別公演としてオペラシアターこんにゃく座によるオペラ『森は生きている』を上演。終演後には舞台衣装姿のキャストと一緒に写真を撮る姿が多く見られた。心温まる内容と共に記憶に残るひと時となったことであろう。

また大ホールロビーでは、作文公募や狭山青年会議所の協力により実施した東日本大震災被災地支援の為に企画展示『い・の・ち』に多くの人が見入っていた。被災者や被災地の事を考えると誰しも心が重くなるが、「被災地の子どもたちが描いた明るい未来画をみて安心した」との感想が何人もの人から寄せられた。

1階の作品展示室や茶席、また小ホール公演である舞台発表『世代を超えて』にも多くの人を訪れ、賑わいを見せた。



舞台発表『世代を超えて』出演者の感想

- ・とても楽しく参加することができました。他の芸術をされている沢山の方々と交流が出来て良いと思いました。(フラフィオナニモエ/オリタヒチ)
- ・記念になる一日でした。他の様々な文化に触れ、心が洗われました。(日本舞踊連盟)
- ・オカリナとのコラボで、場内との一体感を味わう事が出来ました。オカリナの演奏があることで、詩の内容もイメージできたのではないかと思います。(朗読研究狭山会)

トピックス 小学6年生が熱演

舞台発表『世代を超えて』で狭山市民謡協会の民謡千寿会は、三味線・尺八・太鼓の合奏と合唱で、東北・埼玉の唄を熱演。中でも小学6年生の4人は、三味線・太鼓と合唱で大人顔負けの演技。

もう3回目の発表で、指導しているのは会主の伊庭末千寿(石井俊枝)さん。お孫さんの真雪さんと、友達の南小学校生徒を、3年生の頃から自宅や集会所で指導。遊びたい年頃だが熱心な指導の結果上達し、青少年文化体験フェスタでは講師の助手として活躍。これが効果的で、唄も大人に負けない実力。何しろ、大人が苦手な歌詞をスラスラ。



前列左から 吉岡志帆 松本秋乃 伊庭末千寿 会主
石井真雪 酒井隆太 の皆さん

民謡界にとって若い世代への引き継ぎが急務だが、この子どもたちも中学生になると部活で忙しく、今年が最後かも。本人達に聞くと、出来ればこれからも続けたいと。是非がんばって続けて欲しいですね。